

令和8年度第2回大津市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 議事録

1 日 時 令和8年7月30日（木）15時00分～16時00分

2 会 場 大津市役所 本館4階 第4委員会室

3 出席者 委 員 土田分科会長、狩野副分科会長、大橋委員、清河委員、齋藤委員、坂下委員、
七條委員、杉本委員、武田委員、中井委員、松田委員、山口委員

（欠席） なし

事務局 こども未来部長、こども未来部次長、こども・若者政策課長（子育てひろばゆめっこ所長）、こども・若者政策課長補佐、こども・若者政策課政策推進係係長、幼保支援課長、幼児教育指導監、保育指導監、保育入所課長、保育入所課長補佐

4 傍聴者 0名

5 議事

（1）保育需要と提供体制における採択及び財政支援について

（2）大津市立幼稚園再編等検討委員会からの答申について

6 会議録（要旨）

（1）開会

（2）こども未来部長のあいさつ

（3）議事

※議事の公開・非公開については、公開とされる。

ア 保育需要と提供体制における採択及び財政支援について

（資料に基づき事務局より説明）

会 長： 事務局からの説明について、ご質問等があればご発言をお願いします。

会 長： これについては、こども・若者支援計画で提示された内容であり、質問が難しいですが、今年から、こども家庭庁より審議会等で承認を得るようにと示されたもので、昨年まではなかったものですね。待機児童は31人になったようですが、全国ワースト1位からは抜けたのでしょうか。

事 務 局： 待機児童数に関しては、昨年ともう一昨年は全国最多であり、100人を超えているところは大津市だけでしたが、今回31人となりました。ただ、国での取りまとめ時期が8月末となっているため、まだ順位はわかりませんが、いくつかの市では、既にホームページで公表されており、そちらを確認しますと、最多ではなさそうです。以上でございます。

会 長： ありがとうございます。3年連続とならずに良かったです。

その他特になければ、承認でよろしいか。

委員： はい。

会長： それでは、部会として承認とさせていただきます。

イ 大津市立幼稚園再編等検討委員会からの答申について

(資料に基づき事務局より説明)

会長： 事務局からの説明について、ご質問等があればご発言をお願いします。

会長： ここは、児童福祉の立場から審査する部会であると認識している。この答申については、積み重ねて報告されているため、答申について意見をするのは個人的に少し戸惑うが、児童福祉の面から見て、提出された案について課題等がありますか。

例えば、子育て支援等、幼稚園も実施されていると認識しておりますが、そのあたりのところは特に変わりなく、実施されるという認識でよろしいか。もし何か変化があれば教えていただきたいです。

事務局： 答申の中にも、市立幼稚園が果たしてきた役割や今後担っていくべき役割の記載をしております。例えば、答申の冊子27ページには、地域の子育て支援の推進というものを担ってきました。先ほど仰っていただいたような事業としまして、未就園時親子通園事業や一時預かり事業を実施してきましたが、こちらに関しては、今後も引き続き担っていく形で答申をいただいております。そのため、再編後にこの役割が無くなるというものではございません。以上になります。

会長： はい、わかりました。ありがとうございます。

パブリックコメントを丁寧に説明いただいたが、再編についての全体像は、どこを見ると一番分かりやすいでしょうか。

事務局： 冊子に関しましては、全60ページぐらいあり、読んでいただくのが大変な資料となっております。おそらく市民の方も含めて、一番関心事としてあるのが、資料の54ページに、この再編等の方向性の検討結果という形で、表をまとめております。

これまで、大津市立幼稚園が担ってきた役割や今後も果たしていくべき役割、あと地域性等や当然、園児数というのも考慮した結果、このような形の再編の方向性を示していただいたというものになります。以上になります。

会長： はい、ありがとうございます。

委員： 単純なことを聞くのですが、今説明いただいたパブリックコメントの結果について、良い点や悪い点も説明いただきましたが、それは、この答申の中に取り入れられているのでしょうか。

事務局： はい。第8回検討委員会の方で、取り入れられるところに関しましては、ご議論いただき、そちらを反映したものが今回の答申になっております。

事務局： パブリックコメントは、非常に多くの数が寄せられております。説明もさせていただきましたが、これから大津市で計画を策定するにあたり、本部会に諮り説明をして、またご意見をいただくこととなります。それ以外には、市議会にも定期的に報告をさ

せていただいております、教育委員会の教育委員の皆様にも、同じように説明をしております。その中で、いただいた意見としまして、大変多くのパブリックコメントを市民の方からいただいております、これまでは、検討委員会の中で、パブリックコメントを反映し、計画内容を訂正しようということでしたが、これからは、市が計画を策定するにあたり、市の方もしっかりと、この市民の方のパブリックコメントの中身を再度見て、計画に反映すべき必要があるものを精査するように、と言われております。そのような形で、大津市では進めていこうと考えております。

そのあたりにつきましても、もしご意見等ありましたらよろしくお願いいたします。

会 長： はい、ありがとうございます。

再編等の方向性のところ、53、54ページを見させていただき、最終、田上、青山校区では、5年後、市立幼稚園が一つになるという理解でよろしいか。

事 務 局： はい、田上、上田上、青山の三つの園が一つになります。

会 長： はい、わかりました。

率直に、随分範囲が広いなと感じます。幼稚園の再編に関しては、検討委員会の意見を尊重すべきだと思いますが、子育て支援のところでは、該当の幼稚園が無くなった後、具体的にどのような方向性をお持ちでしょうか。

事 務 局： 子育て支援につきましては、各地域や学区中心に、そして幼稚園での実施や保育園で実施したいところもありますが、かなり広範囲のところは、幼稚園がどれだけあるのか、市議会でもご質問いただきました。この再編によって、市立幼稚園が無くなった後、子育て支援を担う施設がゼロになってしまう学区があるのではないかと。そのようになって、再編された幼稚園で、すべての地域をカバーしていくことを説明させていただきましたが、確かにこのパブリックコメントでも、やはり地域から、今は子育て支援の拠点となっている市立幼稚園が無くなることへの不安は、ご意見として寄せられておりました。

幼稚園再編においては、集団規模を確保していくという教育的観点からまとめられたものであります。就学前施設が無くなる学区は、具体的には、真野学区、大石学区、そして上田上学区、この3つが再編案によると、学区から保育園、幼稚園やこども園も無くなる地域となります。その場合、確かに子育て支援をどのように守っていくのかという議論は出てくると思っておりますので、そのあたりについても、ご意見賜れば有難いと思っております。以上でございます。

会 長： はい、ありがとうございます。

そのあたりいかがでしょうか。適正規模であるクラス人数の確保、集団教育については、それぞれご意見があると思いますが、大津市の方針として決められたものであります。児童福祉の視点からは、子育て支援等の拠点を幼稚園が無くなった後も確保していただけるのかどうか、小学校区に一つそのような拠点があるというところは、担保していただくのが適切であると考えます。

委 員： 今見ている資料は、4月にも同じように見たと思いますが、パブリックコメントを行い、再度議論をされた結果、6月に更新された大きな変更点や新たな記載があ

れば教えてください。

事務局： はい、ありがとうございます。

例えば、資料16ページの「これまでの取組」と書かれた冒頭5行の「本市においては」から「実施しないとされました。」は、今回のパブリックコメントを受けて追加されたところになります。これまでの取組みというところで、記載すべきであるご意見があり、記載させていただきました。あと、資料の22ページ「市立幼稚園の園児数を増加に向けた取組」に関して、こちらは、これまでに園児数を増加させるための市としての取組み、例えば3年保育の実施や預かり保育の拡充というところを、冒頭8行を追記させていただきました。そして、次の23ページには、表8という形で、預かり保育の経緯を追記させていただいております。そして、次の24ページの最後4行です、「なお」以降に関しては、大津市の保育所等への申し込み状況を書かせていただいている形になります。そして、37ページになります。前のページから再編基準のことを記載しているのですが、その再編基準のうち、「イ」と「ウ」のところで、10人を下回るか、下回らないかというところがあるのですが、その前に「1度でも」というのと、「1度も」という単語を追記しています。こちらはパブリックコメントで、1度10人を下回っただけで再編なのかというようなご意見がございまして、検討委員会の方では、客観的な数字として、「1度でも」と設定したところを明記させていただいた形になります。そして、同ページの中段ぐらい「ただし」以降の3行を追記させていただいております。再編を進める際には、時代に応じて柔軟に検討を行うことが必要であるということのご意見をいただきましたので、記載をしている形となります。

続いて、41ページからその次のページの表は、大津市のこども若者支援計画から抜粋しております。その抜粋している表が、保健福祉ブロックという、市内を7つのブロックに分けたものになりまして、今回検討いただいたのは中学校区を基本とする検討になっているため、少しずつれているという指摘がございまして、中学校区に按分をした表を、新たに追記させていただいたものになります。あくまで按分のため、参考資料という形になります。続いて54ページ、パブリックコメント等で指摘を受けたところですが、当初「5年後のイメージ」、「10年後のイメージ」としていたところを、「5年以内のイメージ」、「10年以内のイメージ」という形に修正をさせていただいております。もともと、検討委員会ではそのような形で議論をしていたものの、少し誤った捉え方をされてしまったため、文言の整理をさせていただきました。

あとは少し説明を付け加えるなど、軽微な修正をさせていただいたところになります。以上になります。

会長： ありがとうございます。

差し支えなければ、この付帯意見は、私たちには突然出てきたようなイメージが正直ありまして、付けられた経緯を可能な範囲で結構ですが、教えていただけますでしょうか。

事務局： まず1つには、検討委員会の中でも、認定こども園化の話は、その必要性について委員の方から出てきておりました。ただ、まずは幼稚園の再編をさせていただきたいというところがありましたので、幼稚園に絞り議論をいただいたところがあります。そして、パブリックコメントを実施させていただきましたら、やはり認定こども園のことについての意見が多くございましたので、検討委員会では、幼稚園の再編に限って議論をして答申を出すけれども、これから大津市がしっかりした計画を立てるにあたっては、就学前施設、保育施設も含めて、しっかり検討をすべきだということで、意見を付されたという形でございます。

会長： はい、ありがとうございます。

今教えていただいた54ページにあるのは、認定こども園化を踏まえた再編ではなく、あくまで幼稚園再編ということで、その次の段階として意見をいただいたものとしての理解でよろしいですね。検討委員会は8回なされ、短い期間に密に検討されてきたものである思います。

子育て支援の観点から、児童福祉の視点から専門部会として、委員の方からご指摘いただけたらと思うのですが、いかがでしょうか。

委員： パブリックコメント内容を読ませていただき、こんなに集まるほど、皆さん自分事として捉え、関心があることなのだと感じました。ただ嫌であるとか、感情的なものではなく、現状こんな課題があるため、こうしてはどうかといった具体的な内容であったと思います。そのため、「やりました」で終わって欲しくなく、集まったこの意見をしっかり取り込んで、慎重に進めていって欲しいと思います。

子育て支援の観点ですと、私の周りにも子育て中の家族の方がたくさんおられ、大津駅前に住んでおられる方は、核家族で実家が遠く、夫婦で子どもを育てておられます。共働きで、母親はパートにより、子どもが幼稚園に行かれている方も多く、子どもや家族にとって、幼稚園がコミュニティの場であると感じている。私自身も仕事で引っ越してきた中、周りに仲の良い人はおらず、保育園の先生方にはいつもお世話になり、相談もできていた。また、大津幼稚園では、地域とのイベントもされており、大津祭りを始め、色々な行事を通じて、新しいコミュニティの繋がりが増えていったお母さん方もおられます。そのような拠点になっているのは、パブリックコメントでも書かれていたと思います。私も同様に思うので、丁寧に考えていただきたいと思います。

会長： はい、ありがとうございます。

幼稚園の再編と地域の拠点施設というところですね。拠点施設としての役割は、残していただければとのご意見でした。他にいかがでしょうか。

委員： このように多くのパブリックコメントが出ているのも確かですし、反対されている方が、やみくもに反対されている訳ではなく、先ほど委員も仰っていたように、色々な思いを抱え、それぞれの事情があると思いますので、再編するのは致し方無いとしても、そのあたりの声をしっかり聞いてほしい。ただ、これからはもっとも子どもが減っていきます、その地域の子どもが当然減っていきます。10年後、

20年後、30年後の未来設計で、その辺をしっかりと念頭に置かれ、担当部局の方々が再編にあたって色々と考えてくださっているのも、市民の声とその10年後、20年後、30年後の天津市の姿をしっかりとイメージさせながら、声を拾っていきながら、作っていくべきであると感じております。

その中で一つ思うのは、子ども達、市民が減っていく、確かにそれが事実でしょうけれども、それだけは済ませないで増やす工夫もしていく。もっともっと子ども達が増えていくように、多くの方々が「天津で子育てしたい」と思えるような工夫も忘れてはいけないのだろうと。そのような努力も加味しながら、20年後、30年後の天津のイメージを作り、引っ張ってもらえたら有難いかなと思います。よろしく願いいたします。

会 長： ありがとうございます。

最初に申しあげました通り、幼稚園の再編等については、この答申を児童福祉審議会としても、その立場は共有させていただいていると思います。委員の仰ってくださった、10年先のこともしっかり検討していただいて、児童福祉審議会として、どこを検討していただくべきか、保障していただくべきか、というところも今日いくつか出してくださったと思いますので、最終的には、市で決定されることだと思いますが、慎重に検討いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

会 長： その他よろしいでしょうか。

本日の議事全体を通しまして何かご意見ご質問等ありますでしょうか。

ないようでしたら、皆様方には、長時間にわたり、熱心にご協議いただき、誠にありがとうございました。これをもちまして、本日の議事を終了させていただきます。それでは、事務局に進行をお返しします。

(4) 閉会